

## 1 横須賀市が産後ケア事業をさらに強化！～予約サービスでもっと利用しやすく～

### 市長

本日、株式会社グッドバトンの園田代表取締役と、産後ケア事業において相互に連携及び協力を行うため、「産後ケア事業の推進に関する連携協定」を締結し、産後ケア予約サービスの「あずかるこちゃん産後ケア」の実証実験を開始することとなりました。横須賀市では、「誰も一人にさせないまち」を目指し、産後ケア事業にも全力で取り組んでおります。

出産後の 1 年間は、子育てのスタートアップ時期として、家族が新しいライフステージに適応し、子どもの健康的な成長と母親の心身の回復をサポートするための非常に重要な時期となります。この 4 月から、横須賀市では産後ケアの対象の子どもを、5 か月未満から 1 歳未満までに拡充すると共に、さらに利用しやすくするため、利用料金の減額も開始しました。

そして、本日、グッドボタンさんと市が連携協定を締結し、予約サービスのあずかるこちゃんの実証実験を行います。あずかるこちゃんを使うことで、予約が簡単になり、さらに手軽に産後ケアを受けられるようになり、負担の大きい出産後の母親の子育てサポートができると期待しています。より一層利用しやすくなった産後ケアサービスが、皆さんの日常に寄り添い、安心感をもたらすことを願っています。

### 株式会社グッドボタン 園田代表取締役

株式会社グッドボタン代表で、産婦人科医の園田と言います。よろしくお願いいたします。私からは 3 点御説明させていただきます。こちらのスクリーンと手持ち資料の方で御覧いただければと思いますが、ちょっとスピードが速いので、もしよければスクリーンを見ていただければと思います。

1 点目は産後ケアです。こちら実際の風景ですが、向かって右、赤ちゃんを抱っこされているのが助産師さん、左側が利用者であるお母さんになっております。今、市長の方からもお話があったように、産後 1 年未満のお母さんと子どもが利用できる事業になっております。目的としては、安心して子育てができる環境を整えること、というところで、提供されている事業内容としては大きく二つあります。一つ目は、これを必ずやりますということはそれほどなくて、子どもの体重、身長を測定するといったことも一部ありますが、基本的には、お母さんが何に困っていますか、というところをしっかりとヒアリングをして、それに寄り添う形になっております。ですので、沐浴をもうちょっとうまくやりたいという方であれば、それに沿った子育て指導をしたり、おっぱいトラブルがあれば、おっぱいケアや授乳指導などをやったり、特徴としては、心と体と社会的な側面トータルのケア、支援を受けていただけるといのが非常に大きな価値になっております。

2 点目は、助産師さんにお子さんをお願いして、お母さんが十分に休息できるということです。産後 2 時間、3 時間ごとに起きて授乳したりしているお母さんの寝不足の状態を解決できるということで、お母さんには非常に喜んでいただけております。なお、これは施設によって子どもの預かり状況が異なる点は御留意いただければと思っております。

実際利用された方からは、一人で自分は子育てをやっていた、どうしたら良いのか、と不安だった方が、産後ケア施設を利用して、「専門家に頼って良いんだ」、「地域にこんな方がいたんだ」と、非常に安心したという声があがっています。

では、この事業がより利用者の方と施設をつなぐというところで、今回の説明ですが、そもそもの課題として 2 点あります。利用の度に市へ利用申請が必要である点、2 点目が予約は施設ではなく

市と調整をする点です。

こちら現状のフローになっておりますが、3ステップになります。予約の調整をして、市へ申請して、実際に利用、この3ステップですが、まずスタートであるお母さんは、利用したいと思った時には、施設ではなく市の方に電話をされます。当然市の方は、施設の空き状況は分かりませんので、市と施設で予約の調整をされます。そして、実際利用日が決定したら御本人に連絡をして、そこから申請のフローに進みます。利用の度に、このように決定したら、御本人は主にe-kanagawaでされるのかなと思いますが、申請をされて、市が承認をして、施設に情報共有並びに本人には決定通知書を郵送される、こういったプロセスになっております。実際当日を迎えたら、利用者は利用して、施設の方は実績報告書という紙を手書きで書いて、月に1回市に提出をするという流れです。これが今回システム導入によってどのように変わるかという点ですが、まず大きな流れ、順番が変わります。

市へ申請して予約、利用というステップで一つ目と二つ目が変わります。まず、市にいつでも申請をスマートフォンからできるようになります。この申請は1回限りになります。産後ケアは、横須賀市の場合は7回まで補助の対象として非常にリーズナブルな金額で利用ができます。私は横須賀市民ですよ、と補助の対象であるかどうかの確認が目的になりますので、それは1回で十分であるということで、市が承認をしますと、メール、LINEの方で速やかに通知が飛んでいきます。

実際利用者の方が利用したいと思った時には、スマートフォンから空き状況をどの施設がいつ空いているのか確認いただいて予約申し込みをすると、施設の方がその情報を確認して受け入れ操作をして、利用可否の通知が御本人に通知されるという流れです。当日利用されますと、施設の方はシステムから実績報告を入力しますと、リアルタイムに市の方はその状況が把握できるという流れになります。

実際の画面イメージになりますが、このように施設を空き状況を見ながら選んでいただいて、そのまま予約に進むというようなサービスの画面になっております。

今回の実証実験でやりたいところとしては、こちらの3点になっております。オンラインのクーポン機能、訪問機能の充実、修正月齢への対応。こちらを、ヒアリングをもとに開発していきたいと考えております。

最後、市長の方からお話がもう既にありましたが、対象の期間というのが大きく伸びました。これは利用者にとっては非常に大きなことですし、施設も増えて、自己負担額、利用料金というのもより安価になっておりますので、皆さんがより利用しやすくなるということで、この事業の内容が良くなったことと、DXというのが両方提供できるのが、非常に良いタイミングに導入、一緒にできることを感謝しております。

私からは以上です。

## ■質疑応答

### 記者

グッドバトンの本社はどちらになりますか。また、今まで、自治体とこのような連携協定を結んだことはあるのでしょうか。

### 株式会社グッドバトン

本社は東京都中央区にあります。産後ケアとして、自治体との連携は二つ目です。ただ、連携協定として正式に締結するのは、横須賀市が初めてです。

### 記者

もう一つは自治体ですか。

### 株式会社グッドバトン

新潟県糸魚川市です。そちらに関しては、昨年度、こども家庭庁と実証実験を行っているということで、一つ目になるのですが、枠組みが全く違うので、一つ目、二つ目ということ、少しどう発言すれば良いかな、と思いながら話していたところです。

### 記者

もう1点ですけれども、これまでも、横須賀市では資料にあるように施設型、訪問型の産後ケアを、6施設、5事業とやっていたのですよね。今後は、産後ケアを利用したい人はまず市役所に連絡すると。そこにグッドバトンさんはどういうふうに関わってこれるのでしょうか。先ほどの説明にもあったかと思いますが、あらためて御説明いただけますでしょうか。

### 株式会社グッドバトン

ありがとうございます。いくつかケースがあります。例えば、新生児訪問で横須賀市の保健師さんがお母さんにコンタクトする時に、結構しんどそうだなって思われた時には、産後ケアどうですか、と案内をされます。あずかるこちゃんというサービスのお知らせにはQRコードがついておりますので、「ここで市へ申請できるのだな」、「産後ケア施設って6施設あるのだな」ということを知っていただいて、そのまま予約に進むということがかなり多いケースではないかなと思います。情報確度が高いお母さんであれば、妊娠中にこういう事業があるのだなということを知り、ウェブサイトから知っていただく方もいらっしゃると思いますし、また、何より横須賀市さんは妊娠届の時にかなり丁寧に資料を作成されておりますので、その時に知って、もう市への申請を検討されるというケースもたくさんあるかなと思っております。

### 記者

それもあまり分からない方に、グッドバトンさんが入ってくるのですか。

### 株式会社グッドバトン

もう産後ケアを利用したい方は、全員があずかるこちゃんというこのサービスのアカウントを作って市へ申請するという形になります。

### 記者

そのアカウントづくりをグッドバトンさんはやっている。

### 株式会社グッドバトン

そうですね。この予約サービスも一気通貫で全て開発しています。

### 市長

システムも開発しておられます。

### 記者

グッドバトンさんの業界は、何業になりますか。

### 株式会社グッドバトン

情報通信業、IT企業になります。

### 記者

スタートはいつからになりますか。今日、協定を結んで、いつからスタートになるのでしょうか。

### こども家庭支援センター長

今日、協定を結ばせていただきましたので、本日から開始をしたいと考えております。

### 記者

この実証実験自体はいつまでやるものなのでしょうか。

### こども家庭支援センター長

令和7年度末まで行いたいと考えております。

### 記者

それ以降、このシステムをそのまま導入するのか、しないのかということは、実証実験を行った後で決めるということなのでしょうか。

### こども家庭支援センター長

そのとおりでございます。実証実験の結果を持って導入を検討したいと考えております。

### 記者

もう一つ伺います。先ほど、実証実験でやりたいことを三つ挙げていただきました。ここのところをちょっともう少し詳しく説明していただけますか。

それまでの説明は、ある意味、システムを使えば簡単に予約ができますよということだと思います。この実証実験をやることによって、この資料に書いてある三つやりたいことは、どのようなものになるのでしょうか。

### 株式会社グッドバトン

御質問ありがとうございます。

1点目のオンラインクーポン機能について、例えば1泊2日での産後ケアは8,000円で御利用できます。ただし、これには回数の上限があります。今までは利用者が市に電話をしておりましたので、市と利用者の中で、「何回目なので、次は自費になります」、「あと何回まで利用できます」というやりとりをしていましたので利用者も回数を把握していました。しかし、まだ今のシステムでは、利用者側では回数が分かりづらい状況になっております。もちろん施設と市は、この方が何回使っているかを把握しておりますが、デジタルクーポンのような形で、産後ケアの宿泊は、あと何回、いくらで利用できるということを、利用者に、画面上で分かりやすくすることはメリットがあると考えています。

2点目の訪問機能の充実についてです。私どもは、施設向けには、実証実験を結構頑張ってやってきました。しかし、横須賀市には、訪問のみを行っている助産師さんが5事業者いらっしゃいます。そのように訪問のみを行っている事業者と、あまり一緒に作ってきたことがありません。やはり施設型と訪問型は、事業者の状況が全く違います。そこで訪問型の事業者さんについて、御一緒させていただいて、どのようにやっていくか機能開発していきたいと思っています。

3点目の修正月齢への対応です。例えば、妊娠30週で予定日から10週間、2か月半ぐらい早く生まれたお子さんは、通常NICUに入院されて、大体、予定日である妊娠40週ぐらいになったところで退院されます。したがって、お母さんはそこから子育てが始まります。

しかし、生後1歳の誕生日の前日までというルールでシステムを動かしてしまうと、実質お母さんは10か月ないぐらいの期間の間だけ産後ケアを利用できるという形になります。これについては、横須賀市さんは、予定日を仮の誕生日のように設定し、1歳の誕生日を迎えても、もう数ヶ月、産後ケアを使えるようにより良いように事業を提供されているのですが、現状、システムがそこまで

の対応できていないので、それに対応していきたいと思っております。

**記者**

ここの書いてある三つは、産後ケアシステムをもっと充実するために、横須賀市と協力するという意味の実証実験ということなのですね。市民も当然便利になるけれども、システムをより良くして、今後につなげていくための取り組みなのですね。

**株式会社グッドバトン**

おっしゃるとおりです。実証実験の間は、市の職員、産後ケア施設のスタッフ、市民のお話を聞きながら、こちらの方が、システムの作りとしては良いなどを相談しながらやっていきます。

**記者**

資料の1番最後、3枚目に財源内訳が記載されています。業務委託料が3,900万とありますが、これはそれぞれの施設に市が払っている分なのか、そうでなくて、グッドバトンさんの実証実験の事業費なのか、この内訳がどうなっているか教えてくださいませんか。

**こども家庭支援課長**

こちらの業務委託料は、全額、横須賀市から助産院や医療機関などに対して支払う委託料です。

**記者**

そうすると、今回の実証実験について、市からグッドバトンさんにどのぐらいの費用を支払っているのでしょうか。

**こども家庭支援課長**

今年度、実証実験につきましては、無償で御提供いただけることになっております。

**市長**

ということなので、大変ありがたいことです。

**記者**

連携協定は、自治体とは2か所目ということでよろしいのでしょうか。

**株式会社グッドバトン**

そうですね。2か所目ということで良いと思います。中核市以上は初めてですが、自治体としては2か所目です。

**記者**

現在の産後ケアの利用上限は何回とおっしゃいましたか。

**こども家庭支援センター長**

原則7回です。

**記者**

その回数は変わらないわけですね。

**こども家庭支援センター長**

はい、変わりません。

**記者**

先ほど、園田社長から説明がありましたが、訪問のみを行っている助産師さんもいらっしゃる、その方たちと一緒に取り組んでいくとのことでした。そのところをもうちょっと説明していただけますか。

**株式会社グッドバトン**

産後ケアは、基本的には三つのタイプがございます。日帰り、宿泊、訪問の三つです。前の2つは施設型と言います。お母さんが施設に行き、日帰り、1泊2日、2泊3日でケアを受けるというものです。

一方、訪問型は助産師さんがおうちに来て、おうちの状況を確認するなど、ケアの内容が全く違うものになっています。そうすると滞在時間も、日帰りであれば大体6時間、7時間とかなり長くなりますが、訪問だと大体2時間程度です。そうすると、その助産師さんが他の事業をやっている時にどうやって予約をとっていくのかというのも、考え方が大分違うところがありまして、その辺を一緒に相談しながら作っていきたいと思っております。

**記者**

訪問と通所はそれぞれ大体2時間ぐらいということですかね。

**株式会社グッドバトン**

通所は大体6時間から8時間です。

**記者**

利用者はこれまではその施設を利用するのか、あるいは直接訪問するのかという選択は、市に直接電話して相談して決めていたのでしょうか。

**こども家庭支援センター長**

そのとおりでございます。

**記者**

まず希望を伝えて、市が調整して、産後ケアに行って、また連絡を受ける。次に、また利用者が再び市に申請すると、最低2回市と電話でやりとりをしていたのですね。

**こども家庭支援センター長**

そのとおりでございます。

**記者**

それが今回の新しいシステムでは、1回のやりとりでOKということですか。

**こども家庭支援センター長**

1回で済むことになります。

**記者**

施設型の施設、訪問型の5事業者とのことでした。比較はしづらいと思いますが、これは横須賀の市の規模で言うとい方でしょうか。

**こども家庭支援課長**

施設は、横須賀市内のお産のできる施設がほぼこちらで網羅されている状況です。自治体間の状況により差はありますが、横須賀市ではほぼ皆さん御協力いただいています。

**記者**

市内の産院、産むことができる施設とほぼイコールということなのですね。

**こども家庭支援課長**

市内6か所、いろいろな地区に分散しておりまして、充実しているのではないかと考えています。

**市長**

実は結構、充実しているのですよ、横須賀は。

**記者**

これまでは、利用の度に申請が必要だったのが、今回の実証実験では、申請が1回で済むということでした。2回目以降に利用する場合、利用者は、メールかLINEで直接、施設に連絡を入れるということでしょうか。

**こども家庭支援センター長**

LINE上で申し込みができます。オンラインでできるということです。

**記者**

市への連絡はしなくて良いのでしょうか。

**こども家庭支援センター長**

2回目からは市への連絡はしなくて大丈夫です。

**市長**

空き状況がオンラインで全部確認できます。

**記者**

別の施設でも良いのでしょうか。

**こども家庭支援センター長**

別の施設でも大丈夫です。

**株式会社グッドバトン**

補足させていただきますと、申請の目的としては、その方が横須賀市民で補助の対象であるかどうかの確認が目的になります。したがって1回で十分です。

**記者**

補助額はどのくらいになりますか。

**こども家庭支援課長**

委託料として、市から産婦人科のクリニックや助産院に支払う費用が、1日あたり大体26,000円か

ら 30,000 円くらいです。それが実際のサービスの利用料になります。  
それを例えばショートステイ 1 泊 2 日であれば自己負担額 8,000 円で御利用いただけますので、その差額が補助額とお考えいただければと思います。

#### **記者**

ショートステイの自己負担額が 8,000 円とのことでした。宿泊する場合などの場合はどのくらいになりますか。

#### **こども家庭支援課長**

ショートステイは、1 泊 2 日の宿泊になりますので、宿泊は 1 泊 2 日で 8,000 円です。後ほど施設に対してお支払いする費用の資料を提供させていただきます。

#### **司会**

この取り組みは、県内初、また中核市以上でもはじめての取り組みになります。グッドバトンの園田様と頑張っていきたいと考えております。よろしくお願いします。



## 2 秋谷老人福祉センター跡地の活用 ～民官連携による西地区の交流拠点整備～

### 市長

秋谷老人福祉センター跡地につきまして、活用いただく事業者が決定したこと、また、今後の土地全体の活用について、お知らせいたします。秋谷老人福祉センターは、「横須賀市 FM 戦略プラン」に基づき、令和7年3月31日をもって、開館から50年の歴史に幕を閉じました。地域に愛されたこの施設と土地が、新しい形に生まれ変わり、そして、未来につなげるために、どのような利活用が最善であるか、これまで、大きく二つの視点で、検討を進めてまいりました。

一つ目は「地域の皆さんの居場所を残すこと」です。これからもこの場所に、集会所として、市民活動の場としてなど、地域の方が集い、交流する場所を確保することが大切であると考え、敷地の一部に、地域活動を行うための公共施設を設置します。

二つ目は「新たな賑わいや交流を生み出すこと」です。この場所は、「かながわの景勝50選」の立石公園を目の前に富士山を望む、風光明媚で魅力的なこの土地のポテンシャルがあります。昨年の夏には「跡地利活用可能性調査」を実施し、多くの事業者の方からも同様の声をいただくと共に、また、地域の皆さんからも「住民も利用できる便益施設」を望む声をいただきました。こうした経緯を踏まえ、令和7年1月から、民官連携による便益施設の事業者公募を行い、令和7年3月27日に活用事業者の選考を行った結果、本日ここにいらっしゃる株式会社Stapleさんを、優先交渉権者と決定させていただきました。

Stapleさんの事業提案については、この後、岡代表取締役から直接お話しいたしますが、私から一言申し上げれば、今回の提案によって、この場所が市内、特に秋谷地区の皆さんに開かれ、愛されるものに、そして、市内、市外を問わず、あらゆる世代の方々を惹きつけ、横須賀西海岸の魅力を、これまで以上に強く発信するものに生まれ変わると確信しています。

### 株式会社 Staple 岡代表取締役

よろしくお願いします。株式会社Staple代表取締役の岡雄太と申します。この度、横須賀市秋谷老人福祉センターの事業者として選定いただいた者でございます。事業の概要について説明をする手前で、我々の会社のこと、また今までの実績などを交えながら10分程度お時間をいただいて、お手元の資料に沿って御説明させていただきます。よろしくお願いします。

株式会社Stapleは、6期終えて7期目に入っている会社です。最初の6年間は、東京日本橋と広島県尾道市瀬戸田という場所で事業を営んできました。広島と今治、尾道と今治を結ぶ六つの島に橋が架かっているしまなみ海道という、サイクリングルートとしてもドライブルートとしても非常に風光明媚で有名な場所があります。その本州側から数えて三つ目の生口島という人口7,000人ほどの小さな島、かなり高齢化が進んで人口減少も進んでいるような場所で事業を営んできました。

行っている事業は、そのような人口減少地域でも、世界の裏側から訪れたいくなるようなホテルと、我々スタッフ自身もですが、地元の方々と手を取り合い、そのホテルを中心とした徒歩圏内の生活圏が豊かになるような、その町を訪れた時にそこに住みたいと思わせるような景色を生むような施設を、ホテルを中心に作ってきております。

会社としては、不動産会社として不動産の取得、開発も行いますし、社内で設計デザインも行います。造ったものは誰かに運営してもらうのではなく、自分たちの手で最後まで運営の面倒を見ます。さらに運営してそこに生活者としてうちのスタッフを含めて、住んだ暁にはその先の生活圏がどう豊かになっていけるかということを考えながら、新たな開発をその同じ地域内で小規模かつ連続的に行っていきます。その地域がよりいろいろな人のアンテナに引っかかるように、あるいは地元の方々がどうしても人口減少していくとお祭りもなくなっていくので、そういったものに代わるもの、お祭りの維持などにも、尽力をしています。瀬戸田を事例にとると、人口7,000人の島ですが、1年に一度、我々の主催で1,500人が走るマラソン大会を開催しております。そういったことで、人口は、我々が関わってから、7%減った地域でも20代、30代が12%増えるというような結果をも

たりました。また、インバウンドも5%以内であったのが、今は半分弱がインバウンドの旅行者になり、若者とインバウンドの旅行者と元々の地元の方々と、いろいろな層が混ざり合うような景色を生んできているのがわが社の特性かなと思っており、ここに出ている写真がまさにそういった景色が生まれたところを表しているものになります。今お話ししたことの図が2枚目にあります。もう一度になりますが、徒歩圏内を中心にやっていくことと、そこでホテルと生活を豊かにするような施設を展開していくということを表しております。

瀬戸田の事例を先ほど口頭で御説明いたしました。まさにここも、元々の地域の歴史民俗資料館だった場所や、地域の方々が元々住まれていたけど使われなくなった建物を何棟かに分けて、我々の方でリノベーション、あるいは新築を重ねて、今、街中で7棟、計16室、ホテルの運用を行い、先ほどのような効果を生んでいる事例になります。

直近ですと、3月15日に山口県長門湯本で、地元で閉じようとしていた温泉ホテルを、地域の金融機関さん、山口フィナンシャルグループさんと合弁会社を作る形で事業承継を受けまして、それを再生していき、若者、インバウンド含め、地域の方々と一緒になって地域を盛り上げる役割をやらせていただいております。

早速、今回のプロジェクトについてですけれども、元々、我々は、秋谷で「Soil work」という少し小高い丘のところにある建物をリノベーションして、いわゆるコワーキングスペースを1年半前から運用をしておりました。会員数は60名を超えて、この秋谷の南からも、逗子葉山側の北側からいろいろな会員さんに入っていて、そういう意味では1年半ほど元々の地元の方や、我々の施設があることで、ここの場所に関わりたいといういわゆる関係人口、我々社内用語でニューローカルと呼んでいますけど、そういった方々と交流を深めてきました。

まさに今回、老人福祉センターの活用をさせていただく用途としては、宿泊施設と銭湯と飲食、グローサリーショップという四つの用途、プラス地域のコミュニティセンターの五つ目の要素が混ざり合った複合施設になります。瀬戸田でも長門湯本でも今回の秋谷でも、考えとして共通しているのは、元々の地域の地域の方々、つまりローカル、と我々スタッフ自身もですが、そこに通ってくれたり会員さんになったりしてくれる関係人口、ニューローカルという層に加えて、今度は外来の訪問者を老人福祉センターがあることで受け入れることができるかなと思っています。秋谷をいろいろと巡りました。路面で景色としてその3層が混ざり合っている美しい景色を、日常を車で通りながら見ることは少ないですけども、その3層がうまく混ざり合っている景色、この立地はまさにそれが実現できる場所かなと思っています。外来が泊まれる場所や、銭湯という日常使いができるような用途を入れ込んだのはそういうところを意図しております。

まさにこの「Soil work」は、会員と地元の方々が元々使っていたところに、外来者とさらに地元の方々、ニューローカルという層が混ざり合うような施設を作りました。その二つの拠点も徒歩10分ぐらいで結べるような場所なので、その二拠点をうまく組み合わせながら、この横須賀秋谷の西地区をより発展につなげていけたらと考えております。

今、申し上げたことを一つスローガン的にお伝えすると、元々老人福祉センターというところもあり、やはりその文脈をしっかりと継いでいく必要があると思いましたが、その路面でこの場所に通った時に、0歳から100歳の方々がちょうど良い比率でそこに存在していて、笑っていて、マルシェが行われていたり、映画を見ていたり、そういう優しい景色が見えることで、この町で生きていきたいかもしれないって思ってもらえるきっかけを生むと思っていますので、0歳から100歳が楽しむ秋谷の景色を次の世代につないでいくということを一つスローガンとして、この施設を運用していきたいと思います。

1階から3階の施設にプラスして、コミュニティスペースになっておりますけれども、1階部分に公共性の高い銭湯と飲食店があります。グローサリーというのは聞き慣れない言葉かもしれませんが、いわゆるスーパーやコンビニという、本当に何でも揃う場所ではありませんが、そのお店に入ると秋谷で生産されたものや、秋谷で加工されたものがお土産物と日用品の間ぐらいの、その地域の生活感を表すような物販が行われているようなスペースを想像しています。2階、3階が客室とサウ

ナを考えております。中長期滞在も可能な価格帯の宿泊施設ですので、2階、3階で外来者をうまく受け入れることができればと思います。

これはあくまでイメージとして設計を進めてきており、これから着工まで少し時間があるので、研ぎ澄ませていければと思います。かつてこの地域に温泉もあったといろいろな方から聞いていたので、小さかったとしてもこのように通えるお風呂があることは地域の交流にはとても大事なと思います。カフェ、グローサリーに関しては、地元産の加工品を中心に販売をしていきます。あるいは調理をして、惣菜として、お弁当として販売をしていくような店舗を考えています。

客室は、先ほど申し上げたとおり、かなり小ぶりの客室にすることで、全体の客室単価を抑えて、どちらかという1泊2日でただ海を見て帰っていただくというよりかは、2泊以上、3泊以上、あるいは1週間、1か月というような単位で泊まるとよりディスカウントされるような制度を考えて、より長期でこの場所に泊まることで、この場所に生活することがどういう感じなのだろうということを感じていただけるホテルになるように企画をしていきます。

最後になりますけれども、この地域活動スペースも今回の公募内容の重要なポイントだったと思っています。旧来の老人福祉センターに隣接する形で、新築で作っていきます。うまくその間に駐車場と空間を持たせているのですが、まさにその駐車場空間を活用して、この地域活動スペースとカフェ、銭湯がつながるような形でマルシェを行うなど、地域のイベントごと、瀬戸田の場合だとマラソン大会でしたが、秋谷の場合だとまた新しい形を、ここで事業を営みながら模索していこうと思っています。建物の中だけに閉じこもるよりは、外にも景色が生まれやすいような運営をしていき、今まで老人福祉センターを利用いただいていた方々にも、カラオケをしに来る、銭湯に入りに来るなど、ぜひ利用いただきたいなと思っております。

簡単ではありましたが、Staple についてと、これまでの実績、また本件の簡単な概要を御説明させていただきました。本日はありがとうございます。

## ■質疑応答

### 記者

Staple さんの本社はどちらになりますか。また、不動産開発業と言って良いのでしょうか。

### 株式会社 Staple

基本的にはホテル、飲食店を企画運営する会社です。不動産を自分たちで開発することもあるという形になります。ホテル企画運営会社という方が正しい形かなと思います。どうしてもディベロッパーというと更地から、取り壊しながら開発するようなイメージが付きまとうので、あまりそこは使わないようにしています。

### 記者

本社はどこですか。

### 株式会社 Staple

本社は広島県の瀬戸田にあります。ただ会社としては支店登記が東京日本橋にあります。大体メンバーとしても半分半分くらいです。先ほどお話ししました山口の長門湯本などにも新しく拠点ができてきているので、この先もさらに分散していく予定でございます。

### 記者

表記する場合、本社は東京都の方が良いのでしょうか。

### 株式会社 Staple

本社は、広島県尾道市瀬戸田でお願いします。

**記者**

いつごろのオープンを考えているのでしょうか。

**株式会社 Staple**

ここから着工して、2026 年末、あるいは 2027 年の春頃を目指すようなイメージで、今設計と見積もり等々をこれから進めていくというような感じです。

**記者**

リニューアル費は、目途でいくらくらいになりそうなのでしょうか。

**株式会社 Staple**

いろいろ、建物調査もこれから進めていきます。なかなかこの値段というのは示しにくいのですが、もおおよそ 5 億円から 8 億円ぐらいの間での投資になろうかと思います。

**記者**

完成したこのホテルの部屋ですが、宿泊は大体 1 泊いくらくらいを考えているのでしょうか。

**株式会社 Staple**

部屋は 11 部屋あるのですが、一人当たりではなくて客室単価で 1 泊 5,000 円から泊まれるようなシングル向けのかかなり小さい部屋もあれば、1 泊 25,000 円ぐらいの部屋も用意する予定です。

**記者**

交流施設は新しく新築するということでした。その他については、建物自体は、今ある建物をリニューアルするということなのでしょうか。それとも、今ある建物を更にして建てるのでしょうか。

**株式会社 Staple**

今ある建物の活用を考えています。

**記者**

活用して、銭湯などになるのですね。

**株式会社 Staple**

はい。

**記者**

新しく新築で建てるコミュニティスペースについて、予定しているおおよそ平米数と構造について教えていただけますでしょうか。

**株式会社 Staple**

構造は木造を考えています。平米数は、コスト、設計とも、またこれもブレる可能性がありますが、60 から 100 平米ぐらいのサイズ感で考えています。

**記者**

こちらのコミュニティスペースは、基本的にどなたでも無料で使えるみたいなイメージでしょうか。

**株式会社 Staple**

はい。

**記者**

銭湯は、いわゆる横須賀市の銭湯組合というのでしょうか、それらと同じような使い方なのか、それとも全く別のスパのような感じになるのでしょうか。

**株式会社 Staple**

それはこれから検討していくところかと思いますが、おそらくスパ位置づけで検討していく可能性が高いです。ただ、外来の料金と横須賀市民料金と2層に分けて価格帯を設定していこうと考えています。

**記者**

この建物自体は1975年築ということで、もう50年経つと思います。この建物施設の廃止理由は耐震性、老朽化だと思います。50年経った建物をリニューアルさせるのに5億から8億ということでしたが、そのくらいの費用をかけるリニューアルで、耐震性、耐久性は大丈夫なのでしょうか。

**株式会社 Staple**

まさに我々は24時間、48時間、誰かが過ごすものを取り扱っていますので、しっかり耐震補強をしていく予定です。もちろん予算内で補強も含めて行うという費用感で考えております。

**記者**

このリニューアルや改装にあたって、田浦月見台住宅のように、市では補助金などの公費負担を行うということはあるのでしょうか。

**企画調整課長**

今回は、公募する際に、設計から施工までこの便益施設を作っていただく事業者様に対して、横須賀市が5,700万円という上限額を提案して、地域活動スペースを作っていただくスキームでした。

**記者**

今日、話された5億から8億円掛かるうちの5,700万円ですか。

**株式会社 Staple**

5億円から8億とお話ししていたのは、既存の建物の改修から運営までに掛かる費用感です。地域活動スペースに関しては、別途、先ほどおっしゃっていただいた5,700万円を上限にして、横須賀市様の予算で建てていくものになります。

**記者**

それだけで賄えるものを作られると。

**株式会社 Staple**

はい。

**記者**

建物のリノベーションとその運営で、5億円から8億円とのことでした。改装工事だとその内の何割ほどになるのでしょうか。

## 株式会社 Staple

その中の改装工事部分だと8割ほどになります。

## 記者

このエリアは、近いうちに学校、インターナショナルスクールの建設が予定されていて、近隣に高級賃貸ができるなど、非常に注目を浴びているエリアだと思います。岡さんから見て、率直に秋谷というエリアのポテンシャルというか、魅力のような部分をお聞かせください。

## 株式会社 Staple

ありがとうございます。インターナショナルスクールや、やはりこの海岸線沿いの風光明媚なところを魅力に感じて、いわゆる富裕層や経営者などが多く移住されている印象がある地域でした。1年半ほど前から「Soil work」という会員制のコワーキングスペースを運用することで、元々、都心にいて、海が見える場所に移住をしてきた富裕層の方々との交流もどんどん進みましたし、同時にこの街に元々いらっしゃる地域の方々との交流も進んできました。どちらの層もやはり秋谷という地域にもものすごくプライドを持っています。この地域が三浦半島全域的にもっともっと魅力的になっていくべきだ、そのために自分たちは何ができるかということを、皆さん常にそのコワーキングスペースで夜な夜な議論をしていることを僕らは見聞きしていました。海があり山があり、美味しいお店もある、その地域の魅力は元々あるのですが、それ以上に地元の方々と外から新しく引っ越して来られたいわゆる我々の言うニューローカル層が、かなりこの地域に誇り持ち、これからどうするというエネルギーがある場所だと思いました。そういう意味では、流行り廃りや、富裕層だけのコミュニティになるというよりは、どちらかというと、地元の元々あったコミュニティにどう外から来た人が入らせてもらって、新たな化学反応を生めるかという目線なのであると思っています。我々の施設についても、この秋谷でやるというと、どうしても逗子や葉山という名前が都心にいると聞こえがちで、そこから見て北から南へ下がってきた秋谷と見られがちです。しかし、僕らとしてはやはり、僕らが今回やる場所のさらに南と東側の横須賀の方々をどう巻き込んで地域づくりをしていけるかというのかなり大きいポイントなのかなと考えています。

## 記者

先ほどオープン時期は、26年度末か、27年の春ぐらいとのことでした。ということは、27年の春ぐらいというイメージで良いでしょうか。

## 企画調整課長

26年の秋でよろしいでしょうか。

## 株式会社 Staple

失礼しました。26年秋です。

## 企画調整課長

26年秋を目指しているというところです。

## 記者

この土地は大半が市なのですが、一部は国のものでしょうか。この土地は無償貸与なのでしょうか。

## 企画調整課長

この土地は、横須賀市の土地とその前面に国有地がございます。国有地は市が借り受けていますの

で、一義的には横須賀市の土地と考えていただければと思います。今回、ここを目の前の立石公園と同じ公園区域に入れる予定です。公園となるため売却はしません。土地は貸与という形になります。今回、提案の中で、数年収益が出るまでは無償、収益が出た後はその収益の一部を還元していただくという提案を受けていますので、そのような賃貸方式になります。

**記者**

市の説明では、土地は貸与になりますとのことでした。数年で利益が出たらその分、市に還元されるという説明だったと思います。そのあたりの数字の目途みたいなものはありますか。

**株式会社 Staple**

今回、既存の施設を、設備を含めて一度スケルトン状態に戻して、耐震補強をしてリノベーションをしていくので、投資としてはかなり重めになります。ある程度その改修ができてから、その後に出た利益のパーセンテージでしっかりと支払っていくというような提案をさせていただいています。

**記者**

目標、何年後などありますか。

**株式会社 Staple**

目標は、早ければ5年後、遅くとも7年後というようなタイムスケジュールだと思っています。

**記者**

無償で借りていたところを、5年から7年後に支払う。これは、何の支払いになりますか。土地代で良いのでしょうか。

**企画調整課長**

土地代と言って良いと思います。公園の使用料です。

**記者**

先ほどお話のあった5億円ないし8億円の投資は、既存施設の改修分で、新しく作る施設分は入っていない。

**株式会社 Staple**

はい。

**記者**

これを市の5,700万円で作るということですね。

**株式会社 Staple**

はい。

**記者**

この新しい施設は、木造とおっしゃいましたが、これは木造平屋でしょうか。

**株式会社 Staple**

はい、木造平屋です。

**記者**

資料の3ページにレッドゾーンという横線がありますが、これは何ですか。

**企画調整課長**

レッドゾーンは県が指定する土砂災害警戒区域です。建物を建てることができないのではなく、堅固であれば建てることができます。今回は、木造とのことなので、まだこれからの協議になります。また、厳密に言うところの場所は、レッドゾーンを外れています。

**記者**

土砂災害の防止柵などを設ける必要はないということでしょうか。

**企画調整課長**

はい、今のところはそのとおりです。

**記者**

この建物の名称の案はありますか。

**株式会社 Staple**

はい。「SOIL Akiya」という名称です。

**記者**

全部ローマ字でということですね。

**株式会社 Staple**

はい。

**記者**

この1975年に作られた施設は老朽化に伴って廃止とのことですが、利用者はいたのでしょうか。

**企画調整課長**

年間4000人から5000人の利用者がいました。

**記者**

施設に住んでいる方はいらっしゃらないのでしょうか。通所施設ということでしょうか。

**企画調整課長**

通所施設です。

**記者**

最後に、さきほど、市長は、この景観が神奈川の何に選ばれたとおっしゃいましたか。

**企画調整課長**

神奈川の景勝100選です。

**記者**

今回、公募には事業者が4社参加されたと思います。その中でStapleさんを選ぶに至った経緯、評



価をどのようにされたのかをお聞かせください。

#### 企画調整課長

提案の内容にもありましたけれども、単純にホテルを誘致するというお話ではなく、地域の方も取り込んだ、地域の方も利用できる、旅行者も利用できる、そして、この両者に関われた両者に愛されるような施設だったところが一番の大きなポイントになります。

#### 市長

ニューローカルの方たちと地域の方たちとの融合は、横須賀にとって非常に大切なことです。これからさまざまな地域コミュニティを作ろうと、私が取り組んでいるのは、全てそこをうまく融合できて、開かれた横須賀市にしたいとイメージしていました。その意味で、秋谷は非常に大切なところで、その地域コミュニティづくりの拠点になる潜在能力を持っていると思っていたところに、こうした夢のある方においでいただきました。これはまさに Staple さんしかないだろうと思っています。

Staple さんのスローガンに、風を起こし、土を育てるとあります。風を起こすのは簡単ですが、土を育てていく人はあまりいません。Staple さんがその地域に入り込んで、その地域を愛していただくことが一番大きいと考えています。同じ夢を共有できると考え、私からもぜひ御一緒させていただきたいという思いがあったとお伝えいたします。

#### 記者

先ほど土砂災害警戒区域とおっしゃいましたが、レッドゾーンは土砂災害特別警戒区域ですか。

#### 企画調整課長

そのとおりです。特別警戒区域です。

#### 記者

旧施設は、年間 4,000 人から 5,000 人が利用していたとのことでした。これがなくなるということで、代替利用する施設等はどのようにお考えでしょうか。利用者はどうなってしまうのでしょうか。

#### 企画調整課長

規模は縮小しますが、同じ敷地の中に地域活動スペースを設置します。今回の敷地の中に地域活動スペースが公共施設として整備されます。また、大楠小学校に隣接する大楠幼稚園が廃止されましたが、その施設もあわせて代替機能として活用していく予定です。

#### 記者

交流スペースは老人福祉センター的な機能を兼ね備えるということでしょうか。

#### 企画調整課長

老人福祉センターの機能はありませんが、老若男女、地域の方が会議などに使える施設になります。

#### 記者

その 4,000 人から 5,000 人の利用者は、不便が生じることはないのでしょうか。

#### 企画調整課長

そこは地域の方と協議をして、ここと大楠幼稚園の跡地で分散していただくようお話をしています。

**記者**

そういう説明会を予定されているということでしょうか。

**企画調整課長**

もう説明会は既に行っております。納得いただいた上で、今回の整備に至っています。

**記者**

説明会はいつされたのでしょうか。

**企画調整課長**

直近では本当にこの間の4月にも行いました。

**市長**

その前から1年くらいかけて行っています。

**記者**

不満の声は出ていない、あるいは解消されたということでしょうか。

**経営企画部長**

はい。

**企画調整課長**

1点修正します。神奈川県景勝50選でした。100選ではなく50選です。申し訳ございませんでした。

## ■案件以外の質疑応答

### 市長

ちょうど集計ができたタイミングでしたのでこの場でお話をさせていただきます。横須賀美術館が令和6年度に過去最高となる年間30万人を超えるお客様をお迎えすることができました。これは鈴木敏夫とジブリ展を始め、運慶展やサルバドール・ダリ展の開催により、多くのお客様にお越しをいただいたことによるものです。横須賀美術館は、引き続き今後も数々の魅力的な展覧会を企画し、開催してまいります。

### 記者

ジョージワシントンの放射線物質を運び出す船が着岸したという話があります。午後に市民団体のレクがあって、御担当の人に我々も聞きますが、市長もその話はもう耳に入っていると思います。反対している市民もいる。これについて市長はどのようにお考えでしょうか。市長としてお聞きしたいと思います。

### 市長

毎年行われている通常のメンテナンス業務の一連の作業であると承知しています。

### 記者

市長選に関してお聞きします。先月末に、連合神奈川から推薦が出たと思います。今後の行動と言いますか、政党への推薦依頼、どういうところに推薦依頼を出していこうというようなスケジュール感やお考えを教えてくださいませんか。

### 市長

自民党さんと公明党さんが推薦をしてくださるということで、これから推薦依頼を出すところです。あと維新さんも推薦をしたいと言ってくださっているのでお願いをしようかと思っています。

### 記者

基本的には市議会には議席はありませんが、立憲民主党、国民民主党などが国政政党としてはあります。そのあたりはいかがでしょうか。

### 市長

応援していただけるならいくらでも応援していただきたいと思います。今まで8年間やってきましたので、考え方を理解していただいて応援いただけるところであるならば、どこでもこだわらないと思っています。

### 記者

2点お伺いします。1点目は、先日のネパール訪問について簡単に振り返っていただけますでしょうか。

### 市長

これから来年あたりに姉妹都市の提携をしたいと考えています。ただ、まだまだこれから検討しなければなりません。バトプル市の市長さんとお会いして、人材派遣などさまざまな話をしました。さらには二つの日本語学校と職業訓練施設にお伺いをさせていただきました。一つは介護職員の教育・訓練施設、もう一つは建設、土木の教育・訓練施設です。現場も備えてありましたし、日本語教育と並行して職業訓練をしています。

何がすごいと言いますと、やっぱりネパールの方たちの目の輝きがすごかったです。意欲に燃え

ていて、誠実でした。今はそうではないとは言いませんが、昔の日本人のように、非常に意欲的に感じました。ぜひ横須賀に来ていただいて、さまざまな力を貸していただきつつ、あわせてネパールのために何ができるかを考えるという意味では、非常に有意義な視察だったと思っています。昭和30年代後半ぐらいの日本の風景のようで、信号もなければインフラも十分に整っていない。ただ意欲的で誠実な国民性だとよく分かりました。ぜひ横須賀に来て、できれば谷戸に住んでいただいて交流を結んでもらい、先ほどの秋谷の案件でお話の出た融合ではありませんが、ネパールの人々と横須賀の人間が融合した地域社会ができるのも一つのあり方ではないかと思っています。非常に有意義だったと思っています。大きな会社は直接、業務で、タイやフィリピンの方たちにも来ていただいているのですが、横須賀は御承知のように中小企業が多く、そのツテがありません。横須賀市とバラトプル市が連携協定を結べば、信用もできるし、安心して横須賀に来てもらえるようになると思っています。

#### 記者

ありがとうございます。もう1点は、いわゆるトランプ関税についてです。市内には日産の追浜工場があり、中小企業もたくさんあります。少なからず影響を受ける場所もあると思います。そのあたりの御所見はいかがでしょう。

#### 市長

そこはすごく案じています。自動車関連の企業、内川、追浜の工業会はかなり影響を受ける場所はあると思います。研磨であるとか、さまざまな自動車関係の精密機器を扱っているところがあるので、今後、やはりトランプ関税の動向を見守りながら、行政は何ができるかを考えていかなければならないと思っています。商工会議所と連携して、支援や何かできることを考えていかなければならないと思っています。